

2022年1月30日

2021年度 聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士論文

心不全患者におけるセルフケアとアドバンス・ケア・プランニング
(Advance Care Planning : ACP)
に対する希望と意向に関する看護師の認識

**Hope and Preference of Daily Self-Care and Advance Care
Planning in Patients with Heart Failure: Nurses' perception**

20MN013

熊澤 佐友里

要旨

【目的】:心不全は、急性増悪と緩解を繰り返しながら病期が進行する予後予測困難な症候群であることから、Advance Care Planning(以下 ACP)の実施が推奨されている。また、地域包括ケアの推進に伴い急性期病院から ACP について考えることやセルフケア支援から心不全患者の希望や価値が明確になるよう関わる重要性が指摘されている。本研究では、急性期病院の看護師がセルフケア支援と ACP において心不全患者のどのような希望や意向を把握しているか、セルフケア支援で把握した希望や意向を ACP に活かそうとしているのかを明らかにし、セルフケア支援における患者の希望や意向を ACP へ繋ぐための看護支援への示唆を得ることを目的とした。

【方法】:研究デザインはフォーカスグループインタビューによる質的記述的研究である。対象者は急性期病院に所属し、心不全患者の希望や意向を確認しながらセルフケア支援と ACP をした経験があり、かつ日本看護協会クリニカルラダーⅢ程度の実践能力を持つ看護師とし、認定・専門看護師等の資格の有無は問わないものとした。メンバー構成は2施設から各2名、計4名とした。データ収集期間は2021年7月から10月、オンライン上で1回、約110分の半構成的面接インタビューを行った。インタビューデータから逐語録を作成し、看護師がセルフケア支援と ACP において把握している患者の希望や意向と把握するための関わり、セルフケア支援から ACP へ患者の希望や意向を活かそうとする関わりについて記述し分析した。本研究は聖路加国際大学倫理委員会の承認を受けて実施した(承認番号:21-A028)。

【結果】:看護師がセルフケア支援と ACP において患者の希望や意向を把握する関わりとして、患者・家族、医療者に対する関わりについてのカテゴリーが抽出された。セルフケア支援から ACP に患者の意向を活かすための課題として、患者・家族、医療者、組織に対する関わりについてのカテゴリーが抽出された。心不全患者と関わる急性期病院の看護師は、ACP は治療の選択時や終末期にのみ行うものではないこと、セルフケア支援で把握した患者の希望や意向と ACP には関連があると認識していたが、両者を繋ぐために課題や困難感を抱えていた。

【結論】:セルフケア支援から ACP へ患者の希望や意向を繋ぐためには、看護師が心不全患者に関心を寄せ続ける関わりが基盤となること、日本人の文化や考えにあった ACP の実践には、看護師が ACP において患者の表明した意思を言語化し確認する働きかけが重要であることが示唆された。またセルフケア支援から ACP を展開する実践力をつけるためには、ACP に対するスタッフの知識や態度、倫理観の育成が必要であり、ロールモデルの実践を見て ACP について間接的に学ぶことや、ACP の実践事例を振り返り、集積する機会の提供が有用である。